

6. 核兵器の人道上の結末に関する共同ステートメント

オーストラリア主導による核兵器の人道上の結末に関する共同ステートメント（仮訳）

2015年5月

- 1 オーストラリア、ベルギー、ブルガリア、カナダ、クロアチア、チェコ、エストニア、フィンランド、ジョージア、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、イタリア、日本、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン及びトルコを代表し、発言する。
- 2 核兵器の非人道的影響に関し改めて世界の関心が集まっていることにより、核兵器爆発や核分裂性物質を用いたテロ攻撃によってもたらされうる人類にとっての恐ろしい結末についての議論が再活性化された。人類に対する継続的な核リスクに関する我々の懸念と、代々にわたる平和な未来への願望こそが、我々が、長年にわたり、特に核兵器不拡散条約（NPT）及びその普遍的な適用を通じた核軍縮・不拡散の効果的な進展を訴えてきたことの基礎となっている。
- 3 我々は、国境や世代を越えて、核兵器の非人道的影響に対する認識を広げることの重要性を強調する。核兵器のない世界を実現すべく更なるモメンタムを醸成するために、核兵器のない世界に向けて断固として歩まなければならない理由を、特に核武装国において、今の世代が完全に理解することが必要である。この文脈において、我々は、核兵器の非人道的な結末に関し、多数の国を代表して、オーストラリアによって表明されたステートメントを歓迎する。核戦争が決して起きてはならないことは、人類の生存そのものにとって利益である。
- 4 我々は、冷戦終結以来、世界中において相当数の核兵器が削減されてきたことを認識している。しかしながら、依然として16,000発を超える核弾頭が存在し、その多くが高度警戒態勢にある。更に残念なことに、核兵器を保有する幾つかの国は、新たな核兵器の製造を継続している。
- 5 したがって、全ての国がさらに断固たる態度かつ緊急に軍縮のコミットメントを果たし、また、これらの兵器が使用されず、拡散しないよう確保することは極めて重要である。同時に、核兵器の廃絶は、核兵器を保有する国による実質的かつ建設的な関与を通じてのみ達成可能である。
- 6 核兵器の更なる大幅削減を促進し最終的に廃絶するための条件を醸成するためには、国際社会が核兵器の重要な安全保障の側面と非人道的側面の問題に対処すべく協力して取り組むことが必要である。更に各国間、特に核兵器保有国間における対立と緊張の水準の更なる緩和に向けた努力と、現存する核兵器の強化された透明性や軍事ドクトリンにおける核兵器の役割低減のような信頼醸成措置（CBM）の追求に向けた努力もまた必要であろう。我々は、核兵器国間において高まる現在の緊張関係を、失望とともに留意するとともに、これらの国々に対しては、それでもなお更なる信頼醸成措置と核兵器の削減を引き続き目指すよう奨励する。
- 7 我々は、不拡散と軍縮を相互補完的なプロセスとして同時に進め、より平和な世界を創造しなければならない。我々の成しうる実用的な貢献とは、核兵器の全面的廃絶の達成に向けての一連の措置の一部として、世界の

主たる軍縮交渉フォーラムであるジュネーブ軍縮会議（CD）の障害を取り除き、兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）の交渉を開始し、包括的核実験禁止条約（CTBT）の発効を実現することである。核兵器国は、可及的速やかに核兵器のさらなる削減の実現に向けた努力を行い、核弾頭の警戒態勢を解除し、これらの国の防衛ドクトリンにおける核兵器の役割及び意義を低減させるべく努力しなければならない。また核兵器国は、新たな核兵器の製造を停止するとのコミットをすべきである。国際原子力機関（IAEA）によるグローバルな拡散リスクに対する査察・検証・報告権限も強化されなければならない。この文脈で、我々は、国際的な核軍縮検証の複雑さについてより良い理解を深めるためのイニシアティブを歓迎する。

- 8 NPTは、完全な核軍縮に向けた進展の基礎である。
- 9 NPT第6条において合意されているように、核兵器のない世界の基盤となるため、厳重かつ効果的な国際管理の下における全面的かつ完全な軍備縮小に関する多国間の枠組みあるいは条約が交渉されなければならない。しかしながら、我々は、核兵器のない世界に我々を近づけるために必要とされる困難な実際的取組が依然として必要であることを受け入れなければならない。我々は、核軍縮をもたらすために必要な信頼と透明性を得ようとするのであれば、秩序立った形で現実的に取り組む必要がある。そこに近道はない。
- 10 我々は、NPT及び三本柱に渡るすべての締約国のコミットメントを強化する今次運用検討会議の成果を確保するために建設的に協働することを楽しみにしている。

（了）

オーストリア主導による核兵器の人道上の結末に関する共同ステートメント（仮訳）

2015年5月

- 1 （注）賛同国数158か国）及び我が国オーストリアを代表し、発言する。
- 2 我々は、核兵器のもたらす壊滅的で非人道的な結末について深く懸念している。核兵器の使用と実験という過去の経験は、核兵器が持つ莫大かつ制御不能な破壊力及び無差別性によって引き起こされる受け入れ難い非人道的な結末を十分に証明してきた。2013年3月にノルウェー主催の下で、本年2月にメキシコ主催の下で、2014年12月にオーストリアの下でそれぞれ開催された「核兵器の人道的影響に関する会議」における事実に基づく議論によって、これらの結末に対する理解がより深まった。専門家及び国際機関からの鍵となるメッセージは、いかなる国家または国際組織も核兵器爆発によって引き起こされる人道的緊急事態を解決することも、犠牲者に対して十分な支援を行うことも不可能であるということであった。
- 3 直近のウィーンにおける、158か国、赤十字国際委員会（ICRC）、多くの国連人道機関及び市民社会からの出席という幅広い参加は、核兵器の壊滅的で非人道的な結末が根本的かつグローバルな懸念であるとの認識を反映したものであった。同会議はこの問題の理解をより広げ、深めることを目的としており、我々は、核兵器の非人道的な結末に関する議論に関与することが、すべての国にとっての利益であると確信し、市民社会が継続的に関与してきていることを歓迎する。
- 4 核兵器による壊滅的結末は政府だけでなく、相互につながった世界におけるひとりひとりすべての市民に影響することから、この取組は不可欠である。それらは、人類の生存、我々の環境、社会・経済的な発展、経済、将来世代の健康にまで深く影響する。これらの理由から、我々は、核兵器の壊滅的な結末についての意識が、2015年核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議での作業を含め、核軍縮に向けたすべてのアプローチ及び努力を支えなければならないことを確信する。
- 5 もちろん、これは新しい考え方ではない。核兵器による恐ろしい非人道的な結末は、それが使用された最初の瞬間から、明白になった。そしてその瞬間から今日に至るまで、この恐怖から世界を救うための人類の願望を生み出してきており、それによって本共同ステートメントが発想された。核兵器の非人道的な結末は、1946年の国連総会で最初に採択された決議を含む多くの国連決議及びNPTを含む多国間の文書に反映されてきている。世界の最も著名な核物理学者達は、既に1955年の時点において、核兵器が人類の存続を脅かし、これらの兵器を使用する戦争は人類を終焉させる可能性があることを述べていた。1978年に開かれた第一回国連軍縮特別総会（SSOD-1）は「核兵器は人類及び文明の生存に対して最大の危険を引き起こす」ということを強調した。重大な懸念を示すこれらの表現は切実であり続けている。これにもかかわらず、長年、核兵器の非人道的な結末は核軍縮と核不拡散の議論の核心となってきた。
- 6 それ故、我々は人道的な焦点が今やグローバルな課題として十分確立されていることに勇気づけられている。2010年のNPT運用検討会議は、「核兵器の使用による壊滅的で非人道的な結末に対する深い懸念」を表明した。この深い懸念は、2011年11月26日の国際赤十字・赤新月運動による決議及び多国間の核軍縮交渉を前進させる提案を行うためのオープンエンド作業部会を設立する2012年の国連総会による決定をもたらした。それは、2013年8月の核問題のあらゆる議論の中で核兵器の非人道的な結末を強調することを求めるラテンアメリカ・カリブ諸国共同体による国際社会への呼びかけの基礎となった。2013年

9月、核軍縮に関する国連総会ハイレベル会合において、世界中の多くの首脳達は核軍縮の進捗を求めるとともに、非人道的な結末に対する深い懸念を再度喚起した。2014年国連総会第一委員会では、4分の3を越える国々が同委員会で実施された「核兵器の人道上の結末に関する共同ステートメント」に賛同した。本日の共同ステートメントは、人道的焦点に対する政治的支持の高まりを再び示すものである。

- 7 いかなる状況においても、核兵器が二度と使用されないことが人類の生存そのものにとって利益である。核兵器爆発による壊滅的な影響は、それが偶然、誤断、故意のいずれによるものであれ、適切に対処されることはできない。これら大量破壊兵器の脅威を除去するため、あらゆる努力がなされなければならない。
- 8 核兵器が決して使用されないことを保証する唯一の方法は核兵器廃絶である。すべての国は、NPTの目的を実現し、その普遍性を達成することによる方法を含め、核兵器の使用を予防し、垂直及び水平的拡散を防止し、核軍縮を達成する共通の責任を有する。
- 9 我々は、ICRC及び国際的な人道機関とともに、核兵器の壊滅的で非人道的な結末に対処するための国際社会の新たな決意を歓迎する。この問題に関する関心を高めることによって、我々が責務を実現するにあたり、市民社会は政府と並んで果たすべき極めて重要な役割を担う。我々は、それを行うため、またその過程で核兵器によってもたらされる脅威を我々の世界から排除するため、ともに取り組む責務を未来の世代に負っている。

（了）

〔注〕アフガニスタン、アルジェリア、アンドラ、アンゴラ、アンティグア・バーブーダ、アルゼンチン、アルメニア、アゼルバイジャン、バハマ、バーレーン、バングラデシュ、バルバドス、ベラルーシ、ベリーズ、ベナン、ボリビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ボツワナ、ブラジル、ブルネイ・ダルサラーム、ブルキナファソ、ブルンジ、カーボヴェルデ、カンボジア、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、チリ、コロンビア、コモロ、コンゴ、クック諸島、コスタリカ、コートジボアール、キューバ、キプロス、コンゴ民主共和国、デンマーク、ジブチ、ドミニカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エジプト、エルサルバドル、赤道ギニア、エリトリア、エチオピア、フィジー、フィンランド、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、ガボン、ガンビア、ジョージア、ガーナ、グレナダ、グアテマラ、ギニア、ギニアビサウ、ガイアナ、ハイチ、パチカン市国、ホンジュラス、アイスランド、インドネシア、イラン、イラク、アイルランド、ジャマイカ、日本、ヨルダン、カザフスタン、ケニア、キリバス、クウェート、キルギスタン、ラオス、レバノン、レソト、リベリア、リビア、リヒテンシュタイン、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、モルディブ、マリ、マルタ、マーシャル諸島、モーリタニア、モーリシャス、メキシコ、ミクロネシア連邦、モルドバ共和国、モンゴル、モンテネグロ、モロッコ、モザンビーク、ミャンマー、ナミビア、ナウル、ネパール、ニュージーランド、ニカラグア、ニジェール、ナイジェリア、ニウエ、ノルウェー、オマーン、パラオ、パレスチナ国家、パナマ、パプアニューギニア、パラグアイ、ペルー、フィリピン、カタール、ルワンダ、セントクリストファー・ネイヴィス、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、サモア、サンマリノ、サントメ・プリンシペ、サウジアラビア、セネガル、セルビア、セイシェル、シエラレオネ、シンガポール、ソロモン諸島、ソマリア、南アフリカ、南スーダン、スリランカ、スーダン、スリナム、スワジランド、スウェーデン、スイス、タジキスタン、タンザニア、タイ、東ティモール、トーゴ、トンガ、トリニダード・トバゴ、チュニジア、ツバル、ウガンダ、ウクライナ、アラブ首長国連邦、ウルグアイ、バヌアツ、ベネズエラ、ベトナム、イエメン、ザンビア、ジンバブエ